

グローバル知財戦略フォーラム2017

パネルディスカッション(B2)

中小・ベンチャー企業における経営資源の

好循環形成に向けて～知財を切り口とした人材・技術・資金の好循環～

中小企業・第二創業の 知財戦略の重要性

彩都総合特許事務所／株式会社ブライナ

代表パートナー 弁理士

佐原 雅史

中小企業にとって 知財戦略が「なぜ」必要か

知財活動の3つの本音

本音①メリットを実感できない

- 知的財産権は「目に見えない」

本音②アイデアを公開したくない

- 権利取得＝公開（消極的になる）

本音③裁判で争う体力が無い

- 模倣されたら、知的財産権で争う勇氣はあるか

中小企業・大企業の知財戦略相違

大 企業

- 人・モノ・カネが豊富
- 豊富な知財経験
- 権利の数で勝負できる

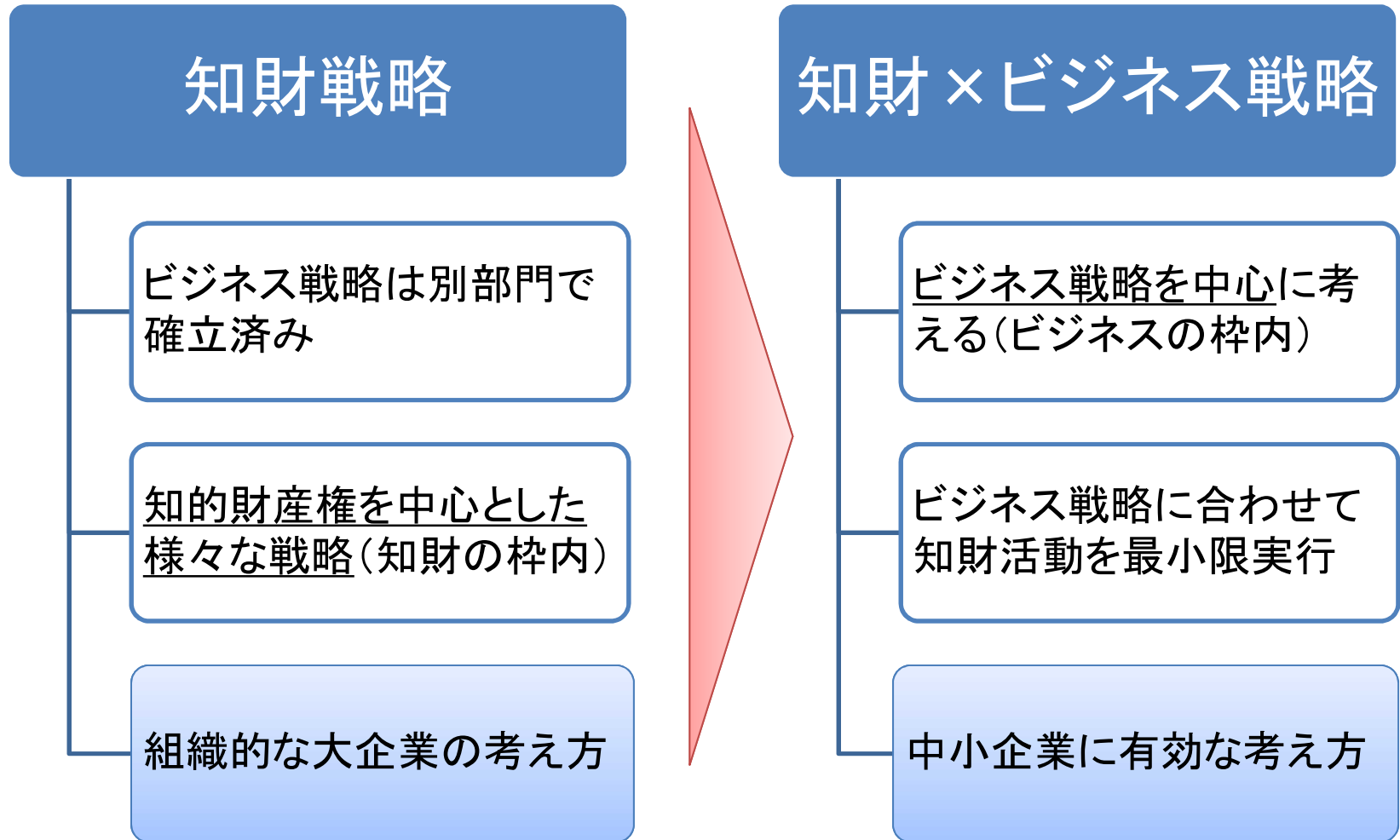
争って勝つ
知財戦略

中小 企業

- 人・モノ・カネに限界
- 経験も不足
- 権利の数で勝負不可

戦わずして
勝つ
知財戦略

中小企業の知財戦略は 知財×ビジネス戦略がメイン



知財 × ビジネス戦略のエッセンス

ビジネス(エコシステム)の中で 自社機能を理解する

A社 「企画」機能

- 他社と差別化した商品アイデアを生み出す役割

B社 「製造」・「供給」機能

- 商品を責任をもって生産し、供給し続ける役割

C社 「販売」・「流通」機能

- 顧客を開拓し、エンドユーザーに商品を販売する役割

自社機能と知財活動の関係

エコシステム

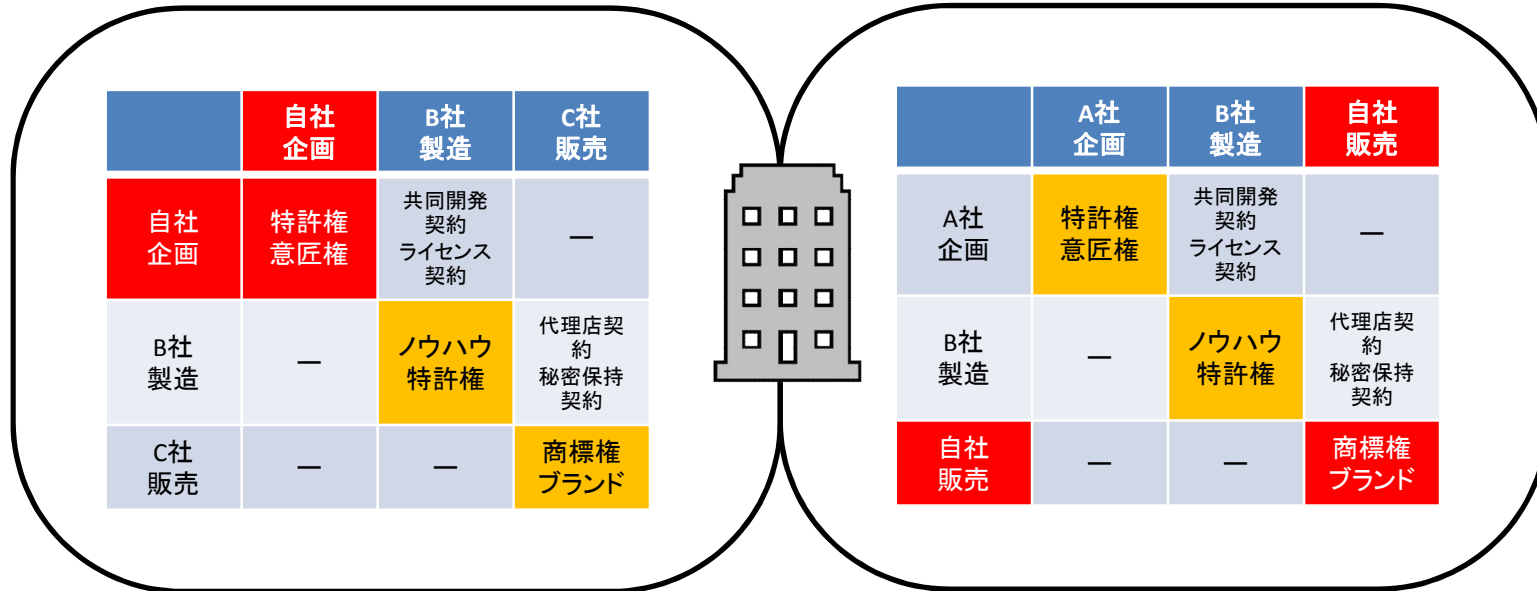
	A社 企画	B社 製造	C社 販売
A社 企画	特許権 意匠権	共同開発契約 ライセンス契約	
B社 製造		ノウハウ 特許権	代理店契約 秘密保持契約
C社 販売			商標権 ブランド

互いに協力して知財戦略を練ることが大切
エコシステム全体で優位に立つ戦略

第二創業時の機能チェンジ

第一創業エコシステム

第二創業エコシステム



知財戦略も上手くチェンジできるか？
(過去の習慣から脱却できるか？)